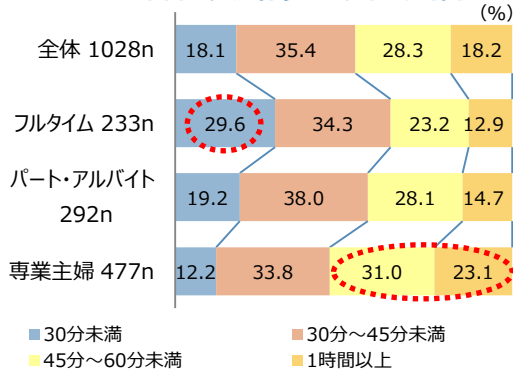


01 Woman's Trend

専業主婦からもアツイ視線。夕食作りにかかる時間が長いほうが「時短」「省手間」のニーズが高い『ほったらかし』系が、使ってみたい調理家電の1位に！

グラフ1 平日の夕食作りにかけている時間 (%)



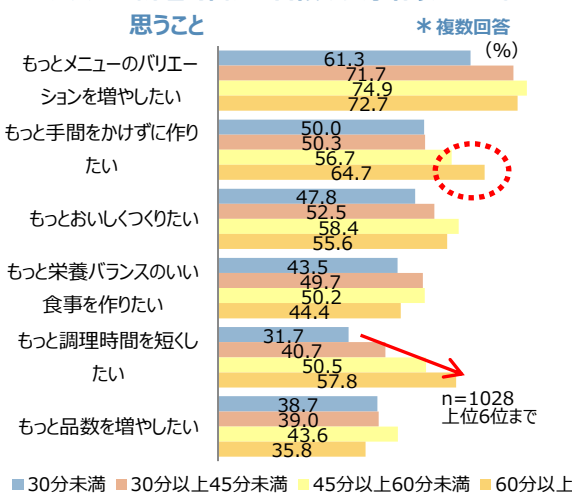
最近の家事まわり商材のキーワードとなっている「時短」。忙しいワーキングマザーの増加が、家事の効率化や省手間を目指す動きに拍車をかけている。そこで今回の調査テーマは「調理家電」。時短やおいしさ、健康、調理の手間など、調理家電がサポートする価値の中で、今重視されるものとは？ 日ごろ料理をする既婚女性1028人の声を、平日の夕食の調理時間という軸で検討した。

まず、平日の夕食の調理時間を働き別別に確認すると、どの働き方も多いのは「30分以上45分未満」。ただしフルタイムは、「30分未満」が3割。一方、専業主婦では45分以上が合計54%と、調理にかかる時間が長い（グラフ1）。

次に「普段の食事作りについて思うこと」を複数回答で聞いたところ、最も多かったのは「メニューのバリエーションを増やしたい」という希望。次に「手間をかけずに」「おいしく」作りたいと続く。「手間をかけずに」「調理時間を短く」を求める割合は、調理に時間をかける人のほうが高い（グラフ2）。一方、30分を切る人たちは、全体に選ぶ項目が少なく、「もっとこうしたい」という意欲自体が弱い。

2018.6.28～7.1 リビングWeb・シティリビングWeb・あんふあんWebのWeb調査 集計数：1028人（日頃料理をする既婚女性のみ集計） 平均年齢：45.4歳 内訳：専業主婦46.4% フルタイム22.7% パート・アルバイト28.4%、その他2.5% / 20代以下7.3% 30代28.9% 40代28.7% 50代20.9% 60代以上14.2% / 子どもの有無：いる75.3% いない24.7% *本文の数字は小数点以下四捨五入

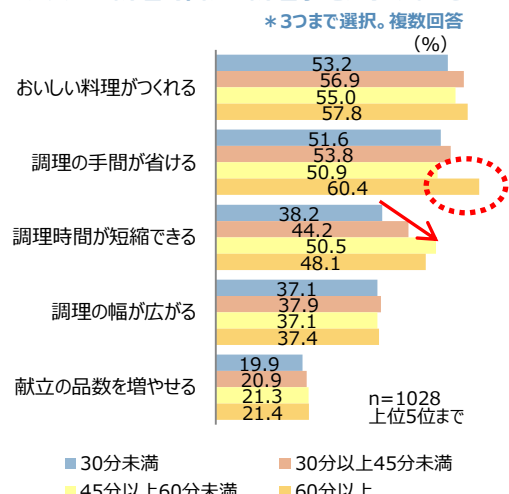
グラフ2 調理時間別 普段の食事作りについて思うこと



ここ2、3年の間に調理家電を買った人は、全体の43%。購入したのは①電子レンジ・オーブン②炊飯器③オーブントースターの順で多かった。「調理家電に求める」ことでは、「おいしい料理が作れる」「調理の手間が省ける」「調理時間の短縮」ここでも、「省手間」「調理の時短」への期待は調理時間が長い人の方が大きめだ（グラフ3）。

「今気になる、使ってみたい調理家電」では、「電気調理鍋・電気炊飯鍋・電気圧力鍋」の、いわゆる『ほったらかし』調理家電が「ノンオイルフライヤー」を僅差で押さえ、1位に（グラフ4）。『ほったらかし』調理家電は、具と調味料を入れてスイッチを入れるだけ。火を使わず見ている必要がないので、もう一品作る、他の家事をする時間が捻出できる。帰宅後に大至急ご飯を作りたいママにも、長い調理時間を縮めたい主婦にも、魅力的だ。2016年から、電気圧力鍋「クックフォーミー」を展開するティファール（グループセブ ジャパン）の

グラフ3 調理時間別 調理家電に求めること



藤井由美子さんは「ティファールのデータでは、『電気調理鍋』ジャンルは、昨年から2ケタで成長しており、ポテンシャルは高い。圧力鍋、無水鍋など、各社から多様な商品が発売され、選択肢が増えていることも、市場が活性化している一因。クックフォーミーも右肩上がりで伸びており、自社のSNS投稿にたくさんのコメントをいただくことから、手応えを感じている」と話す。

表1のように、下ごしらえを時短する「フードプロセッサー等」には、長時間層の関心が高い。30分未満層は余裕がないせいか、調理への改善意欲が比較的低く、以前からある『ほったらかし』系＝「ホームベーカリー」「炊飯器」の順位が上だ。共に「省手間」商品だが、省きたい手間の種類が異なる。時短商品＝ワーママの図式はわかりやすいけれど、現実にはもっと複雑。より丁寧な掘り起しによって、調理家電の新しい提案や、深く刺さるアプローチが発見できそうだ。（所長・滑川恵理子）

グラフ4 今気になる・使ってみたい調理家電

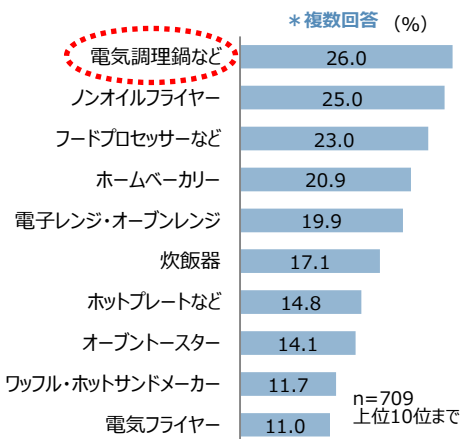


表1 調理時間別 今気になる・使ってみたい調理家電 ランキング

	30分未満 117n	30～45分 256n	45～60分 208n	60分以上 128n
1位	ノンオイル フライヤー 29.1	電気調理鍋 ・電気炊飯鍋 ・電気圧力鍋 23.0	電気調理鍋 ・電気炊飯鍋 ・電気圧力鍋 29.3	フードプロセッサー ・ハンドミキサー ・ハンドブレンダー 35.9
2位	電気調理鍋 ・電気炊飯鍋 ・電気圧力鍋 23.9	ノンオイル フライヤー 20.3	ノンオイル フライヤー 26.9	電気調理鍋 ・電気炊飯鍋 ・電気圧力鍋 28.1
3位	ホームベーカリー 19.7	電子レンジ・ オーブンレンジ 26.9	フードプロセッサー ・ハンドミキサー ・ハンドブレンダー 22.1	ノンオイル フライヤー 27.3
4位	炊飯器 17.9	フードプロセッサー ・ハンドミキサー ・ハンドブレンダー ・ホームベーカリー 19.9	ホームベーカリー 21.6	ホームベーカリー 22.7
5位	フードプロセッサー ・ハンドミキサー ・ハンドブレンダー ・ホットプレート ・卓上グリル鍋 ・カセットガスグリル 17.1		電子レンジ・ オーブンレンジ 21.2	電子レンジ・ オーブンレンジ 22.7

02 Working Woman's Real

【主婦の再就職事情】
若い世代ほど、子どもが小さいうちから主にパート・アルバイトで仕事を再開

35～69歳の働いている女性に、今までの働き方を聞いたところ、「結婚・出産他の事情で長期間仕事を辞めて、再び働き始めた」（仕事再開組）が73.0%。「学校を卒業後、ずっと働き続けている」（仕事継続組）は27.0%。

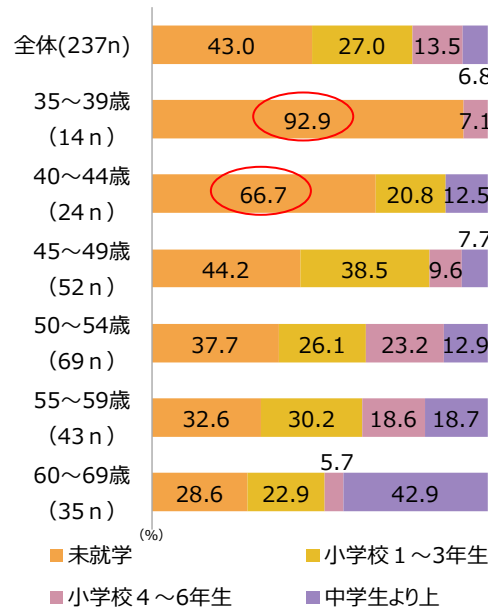
仕事再開組の現在の働き方は、パートタイム勤務が65.7%と多数派なのに対し、仕事継続組はフルタイム勤務が44.4%と多い。

再就職時の末子学齢は末就学が43.0%、次いで小学1～3年が27.0%。若い世代ほど、子どもが小さいうちに再就職している。そのため、仕事探しで苦労したことを自由回答で聞くと、「子どもが幼稚園に行っている間にできる」などの条件に合う仕事を見つけたのが難しかったという声が目立った。

仕事を再開して大変だったことの上位は、「身体的な疲れ」56.2%、「家事・育児との両立」49.0%。良かったことは「自分のお小遣いが増えた」47.7%、「家計が助かった」46.4%といった金銭面はもちろん、「生活にハリができた」55.6%、「人間関係が広がった」47.1%といった効果も。

2018.5.22～5.31、全国の働く女性（35歳～69歳）を対象としたWeb調査 集計数：367

【いったん仕事を辞めて、再就職したときの末子学齢】
※子どもがいる人が回答

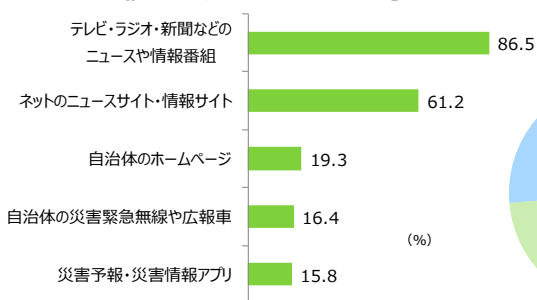


03 Seasonal Data

防災に関するデータはくらしHOWサイト「暮らしの歳時記と消費」に掲載中！

大阪府北部地震、西日本豪雨、その時SNS利用者は？
災害時「SNSで情報発信・拡散した」14.8%

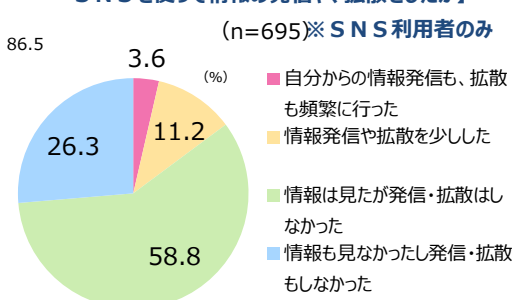
【災害情報、災害予測情報は主にどんな情報源を通して確認しているか】



9月1日は防災の日。6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨がまだ記憶に新しい7月下旬に、防災アンケートを実施した。女性たちが災害情報、災害予測情報を確認している情報源は「テレビ・ラジオ・新聞などのニュースや情報番組」86.5%、「ネットのニュースサイト・情報サイト」61.2%、「自治体のホームページ」19.3%の順。「災害予報・災害情報アプリ」を確認する人は15.8%で、具体的には「Yahoo!防災速報」という声が多く挙がった。

調査方法／Webアンケート 調査対象／「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あんふあんWeb」ユーザー
調査期間／2018.07.18～07.22 有効回答数／女性1279人（平均年齢：45.60歳）

【6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨の際、SNSを使って情報の発信や、拡散をしたか】



家族や親戚、学校や職場との主な連絡手段として想定されているのは、「携帯メール」83.0%、「LINE」50.0%。SNSを利用している人は54.3%。この人たちに大阪府北部地震、西日本豪雨の際、SNSを使って情報発信や拡散をしたかどうかをたずねたところ、「情報は見たが、発信・拡散はしなかった」が約6割で最多。「情報発信も拡散も頻繁に行った」「情報発信や拡散を少しした」人は、合わせて14.8%だった。